

Q3. SDGs達成のために、私たちは何ができるの?

A3.

開発途上国の問題だけでなく、世界規模の問題を解決するために先進国を含めた取り組みが必須となるSDGsでは、日本の私たちも、一人一人が問題意識を持って課題と向き合うことが大切です。

日本にとって身近な課題としては、環境問題や、持続可能な消費と生産などがあります。例えば、電気をこまめに消してエネルギーを節約したり、不要な買い物を避けたりと、普段の生活を少し見直すだけでもいいのです。こうした小さな取り組みで

も、みんなで協力して積み重ねていけば、SDGs達成のための大きな力となるでしょう。

17の目標と169のターゲットがあるSDGsは、一見複雑に感じるかもしれませんが、目標が多様化した背景には、MDGsが作られた当時に比べ、地域や分野の壁を越えて、より多くの人々が世界の問題に関心を持つようになったことがあります。皆さんも、まずは途上国の現状や日本の課題を知ることから始めてみてください。

Q1. SDGsって何? MDGsとどう違うの?

A1.

SDGsは、日本語では「持続可能な開発目標」と訳します。国際社会のあらゆる課題に対する、2016年から2030年までの世界共通の開発目標です。

2001年から15年間、国際社会はミレニアム開発目標(MDGs)の下、開発途上国の問題に対してさまざまな努力を積み重ねてきました。一日1.25ドル未満で暮らす「絶対的貧困」の世界人口比率が、1990年の約47%から2015年には14%まで減少したことは、成果の一例です。それでも、今なお約8.4億人が絶対的貧困の状況にあります。ですが

ら、SDGsでも、MDGsで達成できなかった途上国の問題に引き続き取り組んでいくことが重要です。

一方、この15年間で途上国の状況が多様化しているのはもちろん、環境問題や一国内での格差問題など、先進国も含めた新たな課題も浮き彫りになりました。さらに、開発援助に取り組む主体も、国際機関や政府機関だけでなく、企業や地域社会、市民へと裾野が広がっています。SDGsは、このような世界の変化を踏まえ、国際社会全体の課題に対し、より包括的に取り組んでいくための目標です。

Topic from Abroad

「世界人道サミット・グローバル協議」への参加

10月13日から16日にかけて、ジュネーブの国連欧州本部で「世界人道サミット・グローバル協議」と加盟国対話が開催され、日本政府を代表して外務省の白石和子女性・人権人道担当大使が出席しました。同会合は、来年5月にトルコで開催される「世界人道サミット」の準備会合です。自然災害や紛争などにより人道支援のニーズが高まる中、一人でも多くの命を救う、より効率的・効果的な支援の実現を目指して、課題や施策を議論しました。日本は昨年7月に東京で地域準備会合を共催するなど、積極的に貢献しています。

グローバル協議には、国際機関や政府のほか、NGOや民間セクターも参加し、これまでの準備会合で挙げられた、①尊厳、②安全、③強靱性、④パートナーシップ、⑤資金—の5つの主要な論点を中心に議論しました。

白石大使は全体会合の中で、人道危機に対応する際には、早い段階から人道支援と開発支援が連携していくことが重要であること、また、災害に強い社会づくりが大切だという日本の考えを強調。また、「強靱性」についての分科会にパネリストとして参加した嘉治美佐子ジュネーブ代表部大使は、世界の防災に関する取り組みを報告したほか、復興において、被災前と比べて、一層災害に強い社会づくりを目指す「より良い復興」の考え方を紹介しました。



白石大使(右)と廣田司緊急人道支援課長。ジュネーブ国際会議センターにて

Q2. 日本はSDGs達成のために どんな貢献ができるの?

A2.

日本の国際協力の理念は、「人間の安全保障」、すなわち一人一人の人間に焦点を当て、貧困からの脱却や能力の向上を目指す支援を展開することです。MDGsの下でも、日本は途上国の経済発展を支援しつつ、保健・衛生、女性の能力向上、教育、防災など、より人々の暮らしに近い分野で、大きく貢献してきました。

これらの分野は、例えば初等教育では1990年に80%だった就学率が2015年には91%まで増加するなど、MDGs下で改善がみられていますが、一部

の地域では達成に遅れが出ているなど、SDGsでも引き続き重要です。日本は今後も、持続的で包摂的な、強靱性のある社会の構築を目指す「質の高い成長」の実現を後押ししながら、貧困撲滅に取り組んでいきます。

また、日本国内でSDGsの認知度を高め、より多くの人を巻き込んだ活動と呼び掛けていくことも重要です。外務省では、さまざまな機会を通じて、日本の皆さんにSDGsとは何かを伝えていきたいと考えています。

POINT

- SDGsは途上国や世界の課題に国際社会全体で取り組むための目標
- 日本は一人一人を重視する「人間の安全保障」に基づく支援で貢献
- SDGs達成のためには、生活を見直すなど、身近な取り組みが必要



ココエシ

「ここが知りたい」。国際協力に関する政策を外務省の担当者が分かりやすく解説します!

テーマ
SDGs

外務省 国際協力局
地球規模課題総括課長

田村 政美

TAMURA Masami

1989年に外務省入省。南東アジア第一課、地域政策課などの勤務の後、2006年より在バングラデシュ日本国大使館、在英国日本国大使館において参事官として勤務。2012年より国際協力局気候変動課長を務め、2014年7月より現職。

